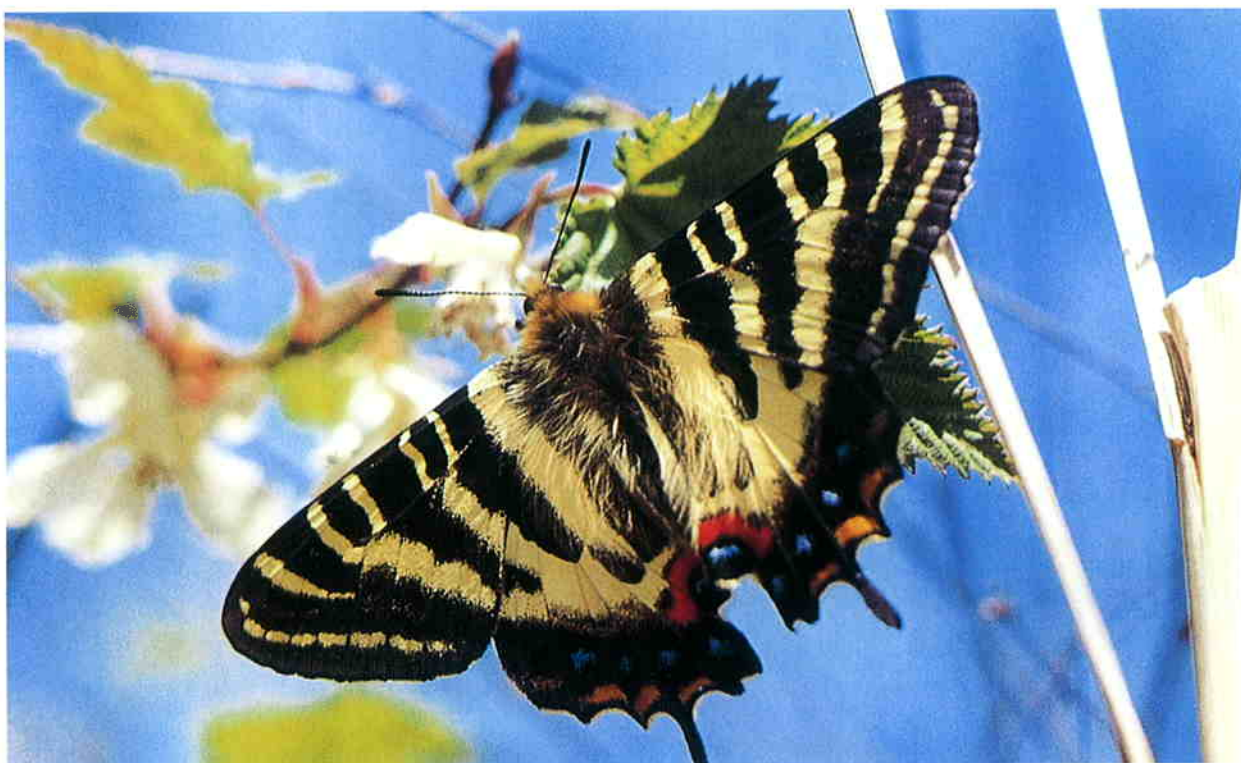


# Que Será, Será

VOL.24  
2001  
SPRING



ギフチョウとキイチゴ 浜野栄次

## パンの神

医療法人和楽会 理事長 貝谷久宣



この季刊誌の読者にはパニック障害を患う人が多いので、今回「パニック」という言葉の起源について考えてみたい。

パニックはギリシャ神話に登場するパンの神に由来する。ギリシャ神話は複雑でいろいろな話が入り混ざり、パンの神についての記載も種々様々であるが、ここでは筆者がパンの神について興味を持った部分を記す。

パンはアルカディア地方に住む神である。パンの父、ヘルメスはドリオプスというギリシャ先住民の王が所有する羊飼いをしていた。そのとき、ヘルメスは1人のニンフ(山、川、森などに住む少女姿の各種の精、転じて乙女、美少女)に恋をし、それが充たされて子どもが生まれた。それがパンの神である。

パンは山羊の足と2本の角を持ち騒々しく笑う不思議な子供だった。母親はこの異形の子を見て、飛び上がるほどに驚き、逃げてしまった。鬚の生えた異常な子供に乳母もつかなかった。父、ヘルメスは困りはて、その子供をウサギの皮にくるみ、オリンポスの山に連れて行き、不死なる神々の仲間に紹介した。パンを見たすべての神々はパンに興味を示し、喜んだ。とりわけ、ディオニソスの神はパンを強く可愛がった。このようにこの不思議な子供は「すべて」の神をなぐさめたので、パン(すべて)と呼ばれるようになった。

パンは食べるパン(Bread)と同義であり、「養育するもの、牧するもの」という意味を持ち、パンの神が家畜とりわけ山羊